

(特活)バングラデシュと手をつなぐ会 広報誌

# Milon

June 2023 No.152

バングラ日記

2023 (R5)

2.6~

コロナ禍を乗り越えて、活動を取り戻そう

現地訪問報告 総会報告

料理教室 在宅ホスピスフェスタ NGO カレッジ 円光寺講演会

日本バングラデシュ協会寄稿 カラムディ村だより

写真:ポロブプール病院で出会った小さな新生児と、文庫本サイズの滞在者の日記(2023年2月)



## 代表あいさつ

# コロナ禍を乗り越えて、活動を取り戻そう

バングラデシュと手をつなぐ会代表 ニノ坂保喜



5月14日に手をつなぐ会の総会を開催しました。

3年ぶりの対面での参加に加えて、オンラインでも参加していただき、熱心な討議と交流が行われました。私も活動方針など話しながら、つい力が入りました。おかげさまで各議案は、原案通り承認されました。皆様のご協力に感謝いたします。

さて、改めて読者の皆さんと一緒に、この一年を振り返ってみましょう。

バングラでは昨年から徐々に、学校が再開され、看護学校のPTAには、女性が多く参加するようになりました。インフォメーションセンターは若者を中心に、パソコン教室、絵描き、歌や踊り、読書など活発に活動しています。

シオンダニ病院はメディカルアシスタントやソーシャルワーカーによる地域での衛生教育が続けられています。受診する患者数も増えていますが、一方で糖尿病の増加がみられます。相変わらず医師や看護師の定着が課題です。住民のニーズをしっかりと掴み、コミュニティに根付いた、保健医療及び教育活動の自立を目指していきたいと思えます。

日本では昨年秋から、3年ぶりに五ヶ山オカリナコンサートが開催（10月）され、日本ホスピス・在宅ケア研究会の全国大会（奈良）では、世界ホスピス・緩和ケアデーに、バングラデシュと手をつなぐ会の活動や現地の緩和ケアの紹介展示をしました。1月には久しぶりに料理教室も賑わいました。現地との交流ではオンラインが進化し、11月にはシオンダニ看護学校と、福岡女学院看護大学の学生とのビデオによる交流会を行いました。学生同士が率直に語り合うイベントは初めてで、今後も継続したいと思います。

バングラと日本の理事会メンバー同士のオンライン交流も始まり、定期的に行うようになりました。総会でも交流会に現地からも参加してもらいました。

## 目次

【代表あいさつ】 コロナ禍を乗り越えて、活動を取り戻そう

【特集 現地訪問報告】 ラフマン・モクレスール 牟田壽 河村富美子

【カラムディ村だより】 ラフマン・モクレスール

【イベント報告】 ・バングラデシュ料理教室 渡邊大治

・在宅ホスピスフェスタ 末岡智子 ・NGO カレッジ 野田景子

・円光寺講演会 井本剛弘

【日本バングラデシュ協会寄稿】

・手を差し伸べるから「手をつなぐ」関係への道のり（前編）山田英行

【事務局だより】 ・総会報告・行事予定・新会員紹介・会計報告など

コロナ禍で途絶えていた Bangladesh 現地訪問がようやく4年ぶりに復活しました。昨年10月に行かれた牟田元理事を皮切りに、今年2月に河村理事、4月にはラフマン副代表が続けて現地へ渡航いたしました。

### 牟田 壽

#### 飯塚国際文化交流センター館長・当会会員



#### シオンダニ病院の課題とは？

昨年10月下旬から10日間、Bangladeshのカラムディ村を友人の職業画家中村氏とともに訪れた。僕にとっては2011年の初訪問から今回が5回目となる。人口密集地域である、ここカラムディ村は医療環境が11年前とほとんど変わらず未整備で、多くの課題を抱えており、前途多難という印象を強く感じた。

課題を整理すると、

#### 課題（1）医療施設の不足

都市部には公立病院などは存在しているが、シオンダニ病院は医療器具など充実がまだ十分でなく、手術の要るような病人は都市部に移動する必要がある、不便さをぬぐい切れない。

#### 課題（2）医師不足

常勤医師はいるが、待遇面で不満もあり、短期間のうちに辞めたりしている。医師個人の情熱に支えられていることには限度がある。また治療の質、診断の正確性などにも問題がある。看護師の待遇改善も必要。

#### 課題（3）医療設備の不備

X線検査機材等、薬品も不足している。

#### 課題（4）医療費の負担

高額なため、病院に行きたがらない患者たちがいる。したがって自宅で治療をおこなったりして、病気が悪化することもある。貧困世帯が多く、皆保険制度も導入には厳しい現実がある。

このようなシオンダニ病院の課題を解決し、事業として成立するためには

1. 事業としてまず無駄な出費を抑えること
2. 公共医療機関として政府への支援依頼強化
3. 互助保険制度の導入（わずかでも良いから健康管理の意識付けという狙いからも大切）
4. 医療環境（人、モノ＝道具、金）の充実
5. 保健の源流に手を打つ取り組み、即ち住民を巻き込んだ健康管理活動

主婦を主な対象として取り組んでいるサテライトクリニックの活動は希望と夢を与えてくれることに間違いない最優先事項だろう。なによりも無知がすべて問題を起こすと考えられるからである。予防医療活動はその質とそれを必要とする人への継続的働きかけ、アプローチが大事といえる。指導する側のたゆまぬ自己研鑽と忍耐が必要なんだろうと思う。

今回このサテライトクリニックに参加させていただいたが、シオンダニ病院のスタッフ達の頭の下がる活動、涙ぐましい努力に今回の旅でもとても感銘を受けた。全ては住民のために！という熱い思いがなんとも頼もしい。頑張っていて欲しいものです。



シオンダニ看護学校の先生・スタッフらと交流



サテライトクリニックの様子

最後になります、病院は言わば弱者がたどり着く受け入れ場所なので、赤字は免れない。

従い黒字を産む事業を創出して赤字事業を穴埋めする Total Management という意味からしてもそろそろ別のアプローチから事業を見直すことが必要ではないかと思う。

なぜなら手をつなぐ会も高齢化が進み、これまで通りの支援がますますできにくくなりつつあるからである。



カラムディ村の  
小学校の子どもたち

インフォメーションセンターでの  
絵画教室

## ラフマン・モクレスール

### バングラデシュと手をつなぐ会副代表



#### バングラの発展と変貌する故郷

2020年2月にバングラデシュに行くために家族で航空券を購入しました。しかし Covid-19 の影響で海外渡航を断念せざるをえませんでした。最後にバングラデシュに行ったのは2019年。それから4年も過ぎました。

バングラデシュに行きたい、ショングダニの活動を見たい、80歳を超えた兄弟たちと会いたいと思いが募り4月22日～5月7日に現地訪問を決定しました。福岡から私たち夫婦、名古屋から娘と孫、アメリカから息子が参加しました。

バングラデシュで当初予想していた 42°C の高温、電力不足による計画停電は空振りとなり、訪問中は、気温は 35°C に下がり、計画停電もそれほどひどくなく、ほっとしました。

テレビや新聞の報道でバングラデシュの発展についていろいろと情報を得てましたが、特にインフラの発展がめざましく、高速道路建設や地下鉄開通が現地では話題になっていました。

しかし交通渋滞は相変わらずひどい状況でした。交通インフラが発展しても渋滞が緩和されないというのは交通量がそれ以上に大きく増えたということなのでしょう。



2004



2023



2016



2023

経済発展も著しく、カラムディ村に行ったときにその豊かさを実感しました。私の実家の周りにレンガ造りのりっぱな建物が増え、景色が大きく変わっていました。

ほとんどの家庭から一人二人は出稼ぎ労働者として海外に働きに行き、送金されてくるお金でまずマイホームを建てるのです。しかし、いつか帰国しなければなりません。その時に収入が途絶え、国内で就職できずに、困っている人もいると聞きました。



カラムディ村の高校生や大学生

この4年の間にバングラデシュにカレッジや大学が増えました。バングラデシュでは11-14年生の課程をカレッジと言います。

カラムディ村では13、14年生課程が追加され、特に女子学生がかなり増えています。



今回、カラムディ村訪問時に高校生や大学生と意見交換の場を開きました。約30人の若者が出席しましたが、女子学生は数

人しかいませんでした。

若者たちはいろんな活動をするためにいくつかのグループを作り、会員として積極的に参加しており、それぞれの活動内容を説明してくれました。

将来、どのような村にしたいか、各自、夢を語ってくれました。その夢をどのように実現するか、まだその道筋は見えてないようですが、これからが楽しみです。夢を実現するためにいろんな活動に取り組みながら地域のリーダーになることを願っています。

今回は一度しか、若者たちと対話する機会を設けることができませんでしたが、今後も彼らとの情報交換する場を持ちたいと思っています。



#### ※バングラデシュの教育制度

初等教育 (Primary Education) が1-5年生、前期中等教育 (Junior Secondary Education) が6-8年生、中期中等教育 (Secondary Education) が9-10年生、後期中等教育 (Higher Secondary Education) が11-12年生である。13年生からが大学となる。11-14年生の課程をカレッジとも呼ぶ。

## 河村 富美子

### バングラデシュと手をつなぐ会理事



バングラデシュのリアル～コロナ禍を超えて、現地の今を伝える～

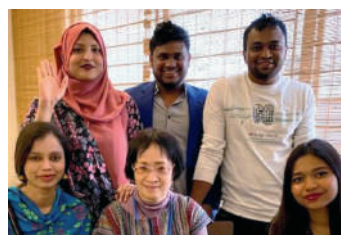
コロナ禍のために2019年3月を最後にバングラを訪問することができませんでした。

また、看護学生らが最後に来日したのは2019年10月です。

新型コロナウイルス感染症がほぼ落ちつき収束に向かいつつある2023年2月、国が発行する「海外渡航用」ワクチン接種証明書5回分を手に現地を訪問しました。3週間という今までにない長旅です。通訳もいない女性3人だけの笑いあり、涙ありの旅になりました。



初めてのシンガポール経由福岡発 6時間35分  
ダッカ空港に深夜同日到着



#### ▼ダッカにて

ダッカでは、シヨンダニ看護学校の卒業生で、ダッカの病院に努めているムンニさんたちや、「夢みるこども基金」の支援

で来日した大学生のラポニーさんたちに再会。ラポニーさんは「卒業後は、障がいがある子どもの教育に携わりたい」とのこと。

翌日、夢みる子ども基金支援来日のタニンさんと会いました。国立ダッカ大学に入学し、専攻はジャーナリスト部です。



1期卒のムンニさんはイーストウエスト医科大学病院で働いています。この病院は、医科大

学、歯科大学、看護大学、医療技術研究所、2つの病院を運営しています。

他に1期生2期生あわせて9名のシヨンダニ看護学校卒業生が就職して、活躍しているとのこと。



ナース控え室の1期生、2期生のシヨンダニ卒看護師たち  
ベッドがあり寝食を共にし切磋琢磨しながら

学び働いています。

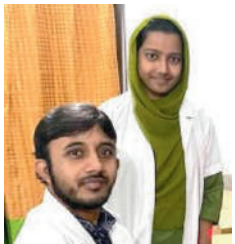
### ▼シヨンダニ病院



ダッカに5泊した後 バスでメヘルプール県入り。バスは冷房が効いて座席指定で快適な約7時間の旅でした。



シヨンダニ病院では13名のスタッフが出迎えてくれました。



シヨンダニ病院検査室の検査技師と看護師のオントラさん…お2人は仲良し夫婦です。

顕微鏡、冷蔵庫、検査薬、など揃っており、一般検査は可能とのこと。他に超音波検査、簡易式レントゲン機器(骨折などの診断可)、体重計も設置しています。



### ▼ヘルスプロモーション活動(サテライトクリニック)

シヨンダニ病院から500メートルのカラムディ村シャハブルパラへ、リキ車で行く(90円ほど)。子どもからお年寄りまで約100人位の人たちが集まってくれた。



その後、在宅訪問に同行。



左：高血圧、動悸あり安静臥床中

右：生後5日目のベビー2,800g 女児、異常なし

・シヨンダニ病院滞在中の受診件数

2/12~2/23 12日間 合計で患者99名、入院11名  
内訳：糖尿病25 妊婦4 手術10 一般29 リハビリ5

### ▼インフォメーションセンター



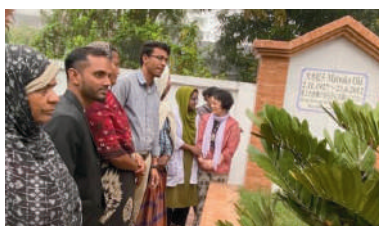
絵画やパソコンゲーム、踊りなどを楽しんでいた。



子どもたち全員にプレゼントする。



病院近くのハイスクールの子どもたちはインフォメーションセンターに毎日遊びに来ます。



大木松子さんまた来ます。(前代表大木さんのメモリアルにて)

▼シヨンダニ看護学校



シヨンダニ看護学生と教員らと大木・ニノ坂ホールの前で



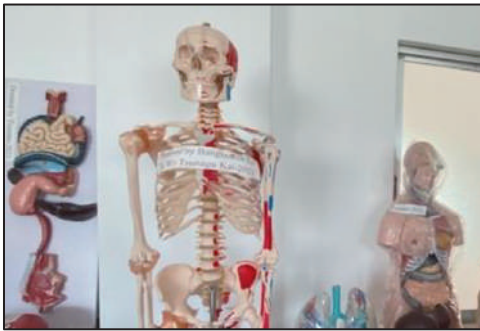
キャッピングセレモニー 看護学生一年生おめでとう！ みんなで祝って…踊ろう！



シヨンダニ看護学校  
コンピュータシステムによる授業風景



シヨンダニスクール生徒、看護学生、看護教員



2021年にテルモ、手をつなぐ会からの支援でそろえられた医療機器、医療書籍

▼ジャパニ小学校



ノーベル文学賞受賞したタゴール作詩によるバングラデシュ人民共和国国歌「我が黄金のベンガルよ」を歌って迎えてくれた。



みんなで  
楽しく  
踊ります。



校庭のゴミ拾いも  
みんなですれば楽しい…



コックファイト遊び(片足を持った状態で、体をぶつけあって、バランスを崩したほうが負け)

### ▼シヨンダニ病院のすぐ近くのハイスクール

年齢別に5クラスに分かれており2つのハイスクールは認可されていないがボランティア教員の指導で進級する事ができる。



みんな底抜けに明るく聡明！  
歌声や笑い声が毎日病院まで聞こえてくる。



授業が終わるとシヨンダニ病院に集まってくる。サッカー、テニス、バドミントンを毎日するのが日課。インフォメーションセンターでの集いも楽しい行事！

### ▼シヨンダニスクール 8~10歳



シヨンダニハイスクール中、高校生！  
理数系など専門教室で学びます。



理科実験の教室へ  
「ধন্যবাদ」と黒板に書いてみた！「wow!」と歓声があがり、みんなで笑って

楽しんだ！

### ▼ボロブプール病院 シスターローズ



イギリスの看護師 彼女が最初にバングラにきたのは50年前、1964年その後イギリスに戻り教会や年金などで資金を集め1974年に再び戻りバングラボロブプール病院で働く。

“彼女は、手術をせずに出産を素早く行う。それが彼女の特技でありモットーです。



バングラの看護師は彼女と一緒に働くことを喜びに感じ彼女を尊敬し愛しています。彼女は村の人々に精神的なサポート、ソーシャルワーク、村の人々へ経済的支援を提供しています。村人は言う「彼女はマザーテレサのような人です」と。

彼女はいつもベンガル語を流暢に話しバングラ人より上手です。彼女は2月21日の母語デーを祝いバングラデシュ文化を愛しベンガル文化の伝統を守り続けています。彼女はずっとバングラデシュに居たいと思っています。バングラデシュの市民権を望んでいます。「死ぬまでバングラの患者を診ていきたい」そして彼女は「バングラで死にたい」と思っています。彼女の死後、私たちは埋葬地をバングラデシュに置きたいと思っていま



す。彼女はもうすぐ92歳の誕生日を迎えます。”(現地ニュース、動画より抜粋)



私たち日本人とションダニ病院がシスターローズに想うこと：イギリスのシスターローズは、130年以上の歴史を持つ「ボロブプール病院」「看護学校」を管理運営している。地域に根ざした community-based hospital を掲げ、またビレッジセンター、サテライトクリニックに早くから取り組んできた。その姿勢は、ションダニ病院のモデルとして医師、スタッフが多く学び現在に至っている。どうかいつまでもお元気で…バングラの人々のために医療、看護への提供を！愛と情熱を注ぎ続けられますように…

#### ▼待ちに待ったエクラムルさんとの再会！



「ついにバングラに来ましたよ！」  
ダッカでベーカリーを経営してる抜水さん人気の koji bakery をお土産にご挨拶！ションダニ病院まで会いに来てくれました。



エクラムルさん勤務のクリニック・検査診断センター

エクラムルさんは、元ビレッジドクター（はだしの医者）。活動当初からションダニのメンバーとして活動してくれた方です。強面ですがとてもやさしく、地域の色々な人たちとの交渉などもうまくやってくれました。今回も、私たちの訪問を楽しみにしてくれていました。

#### ▼設立から34年を迎えての現状と課題

看護学校建設という大きなプロジェクトを果たし、看護学生は2023年現在4期生～6期生132名が在学中です。3期生までの100名あまりが看護師となり、ダッカ市内の医科大学病院、国立病院、専門病院、地元クリニックなどで働いています。病院で働きながら政府から奨学金をもらって進学している看護師もいます。

一方で、看護師になった彼らは

・地域に根ざした看護師を目指して地域医療や看護に携わることができているでしょうか。

・医師不足を補いながら看護師不足も少しは解消されたでしょうか。

・1995年医者のない村に母子保健センター(ションダニ病院)を建設し、サテライトクリニック(2017年まで)を開設し、カラムディ村の人々の医療と健康を守ってきました。

・2023年2月にションダニ病院を訪問しました。ヘルスプロモーション(サテライトクリニック)活動として、週末(木)と週の初め(土)の週2回、メディカルアシスタントとソーシャルワーカーが村に出向き、健康相談や受診指導、在宅訪問を行っています。一緒に同行しました。村の広場に80～100人ほどが集まり親しげに話しています。お互いに顔の見える関係を築いているのがわかりました。

・現地とオンラインで話し合いを進めながら、時代に沿った方法で形を変えながら、いつまでも支援を受けることなく、自分たちの力で自立しながら働ける職場環境を目指しています。

・都会との給与格差、他の病院が近くにない、働く環境が整っていないなどのインフラ問題が多くありますが、村人たちとも話し合いを重ね、理解し合うことでお互いに良い方向に進むよう、努力を重ねていきたいと思っています。

### ▼ 3週間の旅を振り返って

今回、2012年8月以来、2回目訪問となるOさんは義母である大木松子さんの没後11年を迎えたことで「カラムディ村は第2の故郷」と言っていた義母が、シオンダニ病院の敷地内で病院スタッフや村人たちに見守られ眠っている場所に行ってみたい、という想いを話していました。



また、2014年6月以来2回目の訪問となるTさんはその後のカラムディ村の人々がどのように暮らしている

か見届ける旅をしたいという想いでした。

今回の旅を通して、おふたりのそれぞれの想いはどうだったでしょうか。

現地の人たちと溶け込み、手帳が真っ黒になるほど質問や見聞きしたことを書き留めていました。エネルギーに行動し、たくさん笑顔溢れる写真がたくさん、事務局のフォルダに収まっています。

次回は是非お2人のお話を聴いてみたいと思います。

私は、ダッカ市内観光で今までにない体験をすることができました。JICAが支援し完成したメトロに悲願の初乗り、市の美術館、馬車、ブルガンガ川ボート渡河など。

特に、帰りのダッカ3泊ではシオンダニ看護学校卒の看護師が勤務している2箇所病院を視察しました。バングラでも、特にダッカでは医療機関も大きく発展していることを感じました。

また、日本に留学して働いているカビルさんの実家を訪問することができたこともいい思い出です。

カビルさんの実家があるブラモンバリアは、たくさん池があり水を汲み上げる設備や、近くには日本語学



カビルさん(手をつなぐ会会員・本田技研工業で貿易業務)のご家族

校、観光もでき、親族もたくさんおられ自然豊かな営みが心地よい所でした。

3週間、ともにバングラ訪問の旅をし、泣いたり笑ったりのエキサイティングな旅でした。

たくさんの方にお世話になりありがとうございました。

通訳の同行はかないませんでしたが、日本にいる抜水さんに細かいアドバイスを受けながら無事に帰国できました。ありがとうございました。

シオンダニ病院スタッフのみなさん、カラムディ村活動のスケジュールに毎回同行して安全を確保してくださり本当にありがとうございました。メヘルプール入りからダッカに向かうバス停までお忙しいなか送迎、見送りを受け心から感謝しています。「このままずっとみなさんと一緒に居たい」と毎回思い、涙の帰国後しばらくホームシック状態が続きますが、民生委員の仕事、日々の生活がゆっくりと現実に戻してくれます。

元気でいればまたすぐに現地訪問ができます。

また会える日までみなさん仕事や学校生活元気に明るく頑張ってください。

## ◆カラムディ村だより

ラフマン・モクレスール



手をつなぐ会副代表

シヨンドニスクールでの評価方法  
バングラデシュにおいて1月はすべての  
の始まりの月です。学校も始まる、入

学も始まる、授業も始まるのです。一月に新入生は制服で登校します。通学路いっぱい、素晴らしい色に変わります。

生徒の学業成績評価はもちろんのこと、教員の実績評価も1月からスタートします。公立学校の教員は、他の学校に異動することもあります。シヨンドニスクールのような私立学校には異動はほとんどありません。公・私に関係なく、学校での教育活動等の成果を検証し、教員の実績を評価します。その評価方法は様々で、校長、保護者、市や県の教育委員会による評価に加え、自己評価もあります。



総合的な評価方法は教員にだけでなく学校全体、校長、生徒にも適用されます。シヨンドニ学校自体に加え、シヨンドニの校長や教員、生徒たちは学校設立以来ずっと表彰されてきました。今年も県内でトップレベル評価を得ています。学校はもちろんのこと、教員や生徒にとっても、このように表彰されるのは大きな誇りです。

## 広がる奨学金の輪



写真両脇の学生二人は今年シヨンドニ看護学校を卒業し、  
国家試験に合格しました。  
写真中央に写ってる Moni

さん、この学生らが通っていた小学校の校長でしたが数年前に退職しました。経済的に困っている卒業生やその保護者から頼られ、この元校長先生は自分の給料の中から一部を奨学金としてこの学生らに提供していたのです。彼女は海外で活躍しているバングラデシュ人にも声をかけ、スポンサーを募りました。そのおかげで、この二人の学生は学業に専念することができ、現在は看護師として活躍しています。

経済的に困難な学生が学業を継続でき、社会に巣立つことを支援する奨学金が増え、善意の輪が広がっていることに感謝しています。

## ◆イベント報告

### バングラデシュ料理教室

渡邊 大治



久しぶりに本格的な料理教室にお声をかけていただき私達夫婦に息子と小学校2年の孫娘の4名で参加しました。

亅岐島に勤務していた平成17年頃、

「夫婦のカレー料理コンクール」に参加したことがありました。カレー料理コンクールと銘を打つぐらいだから、まさか市販カレールーを使ってよいものとは思ってもよらず、私の組はSBパウダーと小麦粉を炒めるところから始めたのです。ところが、驚いたことに他の組は市販品を使っていました。今回のバングラデシュ料理教室では材料がすべて準備されていたので気楽なものでした。ただ私の班テーブルは孫娘と離れていたのので爺さんの登山で修業した包丁さばきを見せられなかったのが残念でした。



カレーに入っているスパイスは本来、漢方薬だったらしく、インターネット情報によるとカレーは究極の健康食で、酷暑の時期など食欲の低下する場合にはカレーは理想的とのこと。どうりで以前(平成16年)スリランカを仕事で訪ねたおり、5日間、毎食全てに今回のようなおいしい多様なさらさらとしたカレーが用意されていました。

また機会があれば、多くの孫達と参加したいと思えます。準備されたスタッフの皆様ありがとうございました。



## 在宅ホスピスフェスタ

事務局 末岡智子



今年の在宅ホスピスフェスタは3月19日(日)アクロス福岡(4階国際会議場)にて「最期までいきいき生きようや〜今、縁と援のある暮らし」の題目で開催されました。

当会もパネルを出展し、バングラデシュでの保健医療活動を紹介しました。

オープニングコンサートは山の音楽家 Shana さんによるオカリナとギター演奏の優しい音色ではじまり、心が休まるのを感じることができました。

その後、在宅ホスピスに関わったスタッフや家族の方々の発表が続き、介護の状況を解りやすく説明され、皆さんのあたたかい対応に感動しました。



講演会場展示コーナーには10数団体分のエリアが設けられており、会のポスター、チラシ、会報誌ミロン等を置かせていただきました。当会の活動に関心を

持って手に取られた方もおられ、久しぶりの大きなイベントに参加することができ、貴重なひとときを過ごすことが出来ました。

## 第22期 NGO カレッジ

事務局 野田景子



2023年3月11日(土曜日)にももち文化センターで、NGO 団体説明会があり、当会も参加しました。

「NGO カレッジ」とは、国際協力や NGO などが取り組む活動について理解を深めていくことを目的としたもので、NGO 福岡ネットワーク(FUNN)が主催しています。国際協力や NGO 活動に関心のある学生や一般の方を対象にしています。

今回は全3回の連続講座でした。3回目の最終日には、前半に「国際協力の現場と私たちの関わり方」というテーマで福岡大学の准教授 林 裕さんのお話がありました。林さんがアフガニスタンで関わってきたボランティア活動を中心にお話をされ、その中で、若い人たちにもっと国際協力ボランティアに参加してほしい、との思いを熱く話されていたのが印象的でした。



後半は、5団体によるプレゼン及び個別説明会でした。どの団体も若い人たちが頑張っているなという感じでした。当会では、すで

に支援活動の骨格は出来上がっており、若い人たちの関心を引き起こしづらいのではという印象を受けました。もっと若い人たちにも参加してもらえるような工夫が必要なのでは・・・と考えさせられた NGO カレッジでした。

に支援活動の骨格は出来上がっており、若い人たちの関心を引き起こしづらいのではという印象を受けました。もっと若い人たちにも参加してもらえるような工夫が必要なのでは・・・と考えさせられた NGO カレッジでした。

## 円光寺講演会

手をつなぐ会理事 井本剛弘



この度、佐賀県佐賀市東与賀町にある円光寺、五十嵐雄道住職から依頼を受け檀徒さん約30名が集まる総会の後、手をつなぐ会の活動発表をしました。

五十嵐さんは、にのさかクリニックにおいて、バイオエシックス米沢ゼミの勉強会で一緒に学ぶ仲間です。本寺は、京都府西本願寺、宗派は浄土真宗本願寺派、名称は普照山円光寺の山号を持ちます。五十嵐さんは佐賀の看護学校で「仏教からみた”ヒト”の生と死」のテーマで、また、地域で「いのちを考える」講演などを行っておられます。

当会からは、河村理事、会員の安藤さんと私が参加しました。



みなさんバングラデシュの位置も分からない方ばかりとのことで、

地図や地球儀での紹介から始まりました。その後、スライドで河村理事が先日行かれたバングラデシュの報告をしました。

参加者からは、「看護学校が建設途中と聞いていましたが、」との質問があり、「2019年に完成しました。」と回答すると会場からは拍手が湧きあがりました。まだまだ当会の支援者に情報が行き届いていないんだなと痛感しました。

発表が終わった後、「仏教婦人会」様から20,000円、「門徒一同」様から12,000円と本堂の募金箱5,110円を寄付としていただき、それに加え「仏教婦人会(総会)」様から講演お礼として、10,000円を私達は受け取り、手をつなぐ会に募金しました。講演を終え、支援を継続されていることに対し本当に有難く感謝の気持ちでいっぱいになりました。



今後もこのような交流を通じて、当会と支援者とのつながりを少しでも多く作っていかれたらと思いました。

## 手を差伸べるから「手をつなぐ」関係への道のり

事務局 山田英行



### 1. 教育の力を信じて（写真：小学校建設開始）

『洪水で流されない丈夫な学校を！』の声に応えるために1987年に「Bangladeshに小学校をつくる会」が発足しました。インド国境に隣接した僻村（メヘルプール県カラムディ村）の小学校建設資金を捻出するため、福岡での募金活動が始まりました。



た。依存心を助長させぬよう村人への負担も求め、建設時には労働奉仕で参加してもらうことになりました。

400万円を超える募金が集まり、2年後にはカラムディ村第二小学校（通称ジャパニ小学校）が完成しました。

当時のBangladeshの識字率は30%ほどで、村人の多くは貧しく学校へ通えない児童がたくさんいました。

そこで、一人でも多くの児童が学べることを願って、日本でチャリティバザーなどで資金を集めて、1990年に奨学金制度も立ち上げました。

奨学基金の他に教科書貸出事業などにも取り組みました。

生徒だけでなく、教える側への支援も必要でした。ジャパニ小学校は後に公立となりましたが、教師への給与が滞りがちで、教育の質を上げるべく、先生への給与補填を当会は開始し、現在も続いています。

「学校を創ることは次の世代と国の未来に役に立つ」という期待を持って、我々の活動は第一歩を踏み出したのです。

### 2. 人の命を大切に（写真：母子保健センターで出産）

1989年に「小学校をつくる会」は、「Bangladeshと手をつなぐ会」に発展解消し、その後、教育分野に加え、医療活動にも取り組むことになりました。

最初に取り組んだのが、妊婦・乳幼児死亡率の低減です。

1992年当時、Bangladeshにおける5歳児までの死亡率は出生1000に対し150人以上、日本の30倍で、国民の平均寿命は55歳前後でした。



乳幼児や妊婦の命を守るために、1993年に母子保健センター建設支援が始まりました。建設用地は村人が拠出し、また労働奉仕も行ってもらいました。建設資材費用の500万円は日本からの寄付で賄われ、2年後

に母子保健センターが完成しました。

順調な滑り出しにみえた医療事業でしたが、情熱に任せた事業の急拡大がたり、人件費などの運営資金補填のために、当会の決算が赤字におちいりました。

Bangladeshは日本のような健康保険制度はなく、貧しい農村地域では、それほど高額ではない診療費さえ払えない患者が少なくありませんし、また医者への定着率の低さも大きな課題でした。

このような条件のもと、母子保健センターを運営するには、日本からの継続的な資金援助が必要であり、それが重い負担となっていたのです。

逆境の中、「ゆっくり進もう♪」を合言葉に、医療格差をなくすためのチャレンジが長く続くことになりました。

### 3. 自活力アップを目指して（写真：ミシン訓練所・子牛の奨学金）



せっかく、学校を卒業しても、手に職がなく、自活できないケースが多く見られたので、ミシン縫製技術、タイプ能力を身に

つけるために職業訓練所を母子保健センターに併設しました。

Bangladeshでは女性の仕事は特に少ないので縫製技術習得は女性の自立への大きな支援となりました。



2001年から、「子牛の奨学金」で貧しい家庭の家計を助けることにも取り組みました。

「まず、メスの子牛を1頭貸し与え、育てさせます。3年後には子牛を生んで。母親の牛から絞ったミルクは子供たちの栄養

源として活用でき、同時にミルクが売れるようになります。この現金収入によって、家計はうるおい、子どもは学業を続けることができます。乳牛は10年間ほどお産をするので、最初の一頭は返してもらって次の貧しい家庭へ貸し与えます。

その後、生まれた子牛はすべて、育てている家族のものとなり、貧困からはい上がることができ、その家庭の子どもは更に上の学校へ行かせることができる。」という仕組みです。

ただお金を与えるということではなく、牛を育てるといふ「仕事」を通じて、豊かになれるという貴重な成功体験も得られるという副産物もありました。

#### 4. 学び合う姿勢を大切に

当会は、教育・保健医療・生活向上の3つ柱を中心に Bangladesh ででの支援活動を始めました。

我々は小さな団体なので、現地に人を派遣し、直接支援することは財源的に無理でした。

現地の人々の自立のための協力活動を少ない財源でも継続できる間接支援の道を選択しました。現地 NGO の Shandhani Shangstha (シンドンダニ・シオンスタ) を対等なパートナーとし、彼らを通じて支援活動をおこないました。

彼らとの信頼関係を築くために毎年、現地訪問を行い、村人やシンドンダニとの交流を大切にしてきました。

これらの協力や交流を通じて「同じアジアに生きる地球市民として、平等の立場で学び合う」ということを実践し、それが「手をつなぐ」関係性を創ってきたのだと思います。



### ◆事務局だより

#### ■総会報告

2023年度通常総会を5月14日(日)に開催しました。新型コロナウイルス感染症がインフルエンザ並みの5類に移行することになり、4年ぶりに、にのさかクリニック2階ホールに支援者の方々をお呼びすることができ

ました。会場開催に加え、オンライン (Zoom) でも参加していただきました。



第1部総会議事における司会は山城理事、議長は井本理事、第2部交流会での司会は富貴田理事に、テクニカルサポートは篠崎さん、小畑さんに引き受けていただき、スムーズな運営ができました。



オンラインでの議案採択の様子

今回は役員改選もなく、通常の議案のみの審議となり、すべての議案が承認されました。

シンドンダニの事業計画については事務局長のザフォルさんに発表してもらいました。



ダッカに地下鉄開通を伝えるニュースのプレゼン

第2部交流会では現地訪問報告「Bangladesh のリアル ～コロナ禍を越えて、現地の今を伝える～」を動画も挿入しながら河村理事に、シンドンダニスクールの教育方針を校長のハビブさんに講演していただきました。



コロナ禍で対面でのイベント活動が軒並み中止となりましたが、一方ではオンラインの活用が進み、Bangladesh からの参加もできるようになったことは福音です。

## ■助成金・寄贈プログラム申請状況

申請中：プロジェクター（NPO 法人イーパーツ）

## ■2023年度上半期行事予定

- ・ 6月 NGO 合同説明会にブース出展
- ・ 10月 世界ホスピス・緩和ケアデーにパネル出展
- ・ 10月 さわら地域チャリティひろば共催
- ・ 11月 ともてらす早良2周年記念事業共催（オカリナコンサート・シンポジウム・モスク体験交流）

## ■新会員紹介

〔正会員〕中村勝人

〔賛助会員〕なし

## 会計報告

### 事務局 末岡智子

#### 2022年度主な収支

【正会員費】 418,000円

【賛助会員会費】 443,000円

【受取寄付金】 17,942,726円

うち14百万円が遺贈。この使途については理事会にて慎重に諮ることになりました。

【受贈品売上収益】 62,700円

【行事参加会費収益】 34,500円

【その他収益】 1,005,019円

【人件費】 1,781,710円

【支払寄付金】 2,250,000円

・12/7 ションダニ支援金送金

インフォメーションセンター 300,000円

ションダニ病院 1,000,000円

## 募金のご協力ありがとうございました♪

（2022年12月～2023年5月）敬称略/順不同

### 【ミロン募金】

秋吉美千代（日本セラピューティック協会）、有松壽美子、有吉準子、飯野孝子、碓道子、石田陽子、市田敬子、伊藤良子、稲永みき子、平山正明（ウエルフェアネット）、大木ひろみ、大澤友二、小川信、押野圭子、帯田輝幸、鐘ヶ江寿美子、鐘ヶ江康子、金子貴美代、上瀉口麻里子、蒲地純、川内恵美子、神戸太郎、吉瀬恭子、草場耕二、久保田千代美、國光登志子、倉光剛郎、倉光東昭、古賀カツ子、五反田千代、権藤説子、酒井和幸、柴小知子、坂本悟、貞刈暢代、貞末一廣、佐藤純子、柴田須磨子、重橋亨、白石信子、末岡智子、末次奈保子、鈴木崇世、瀬尾康子、関根悠紀子、副島タカ、高嶋裕二、竹末龍也、田島寛、多々良元、多々野須美子、立場美枝子、谷口純子、田村賢二、塚原晃子、道本実保、特定非営利活動法人たんがく、中野朝恵、長野洋子、中村サワ子、ニノ坂富士子、野田景子、濱田絹子、原口勝、原紀子、廣田恵津

子、福間比佐子、訪問ボランティアナースの会キャンパス湘南、細野容子、牧瀬千里、松添仁、松田純子、三坂真紀子、溝上明子、牟田壽、元田晶子、安浪加奈子、山田榮香、ユけやき、ラフマンモクレスール、訪問看護リハビリステーションはる、和田節子

### 【募金】

後藤勝也、岡崎万寿喜、貞刈暢代、伊東美紀、杉本潔、太田勇司、茂呂塾保育園

小野田桂子、新庄恭子、中園久美子、山崎麻子、重橋亨、大内光、藤吉礼子、畠山万千、太田英明、管美和、久米隆、阿比留典子、中村サワ子、平川恵子、内兼久和子、中林梓、谷藤正人、あい薬局宮田秀子、山下久代、倉光陽大、馬場キミ子、曾場尾雅弘、南原かつ子、松隈和美、鬼束次男、吉松慶子、竹尾総子、大脇為常、竹末龍也、藤岡美保、久能治子、尹戸真司、ひらまつ病院、中川佳子、志岐玲子、カトリック仁豊野協会、

幸田あけみ、龍秀美、越智吉郎、今給黎修、藤田瞳、福岡友の会、毛利宗孝、八木良子、宮崎秀人、大竹伸子、久保千春、円光寺（仏教婦人会）、円光寺（門徒一同）、河村富美子、井本剛弘、安藤和美、

【旅費カンパ】大賀久美子

【その他募金】中原妙代

### 【募金箱設置協力】

岡本ツタエ、佐田紘子、野田信弘、白熊園、訪問看護ステーション Ohana、グリーンテニスクラブ、春風薬局、シーベスト、高砂園、宮浦事務所、山本富美江、大木整形リハビリ病院、はびね福岡、かもがわ薬局野芥店、スイミングスクール、にのさかクリニック、なごみの家、グループホームあおい、ラフマンモクレスール、安田妙子、バングラデシュと手をつなぐ会野芥事務所、岡本ツタエ、佐田裕一、緑生館、円光寺

### 【募金に添えられたメッセージ】

✿会報誌ミロンでの現地の報告ありがとう

たくさんのご協力、本当にありがとうございます。  
心から感謝申し上げます。



Bangladesh と手をつなぐ会では、現地NGO「シンドンダニ・シオンスタ」とともに、 Bangladesh 西部のメヘルプール県・カラムディ村やその周辺地域で、1989年から《教育》《保健医療》《生活向上》の分野で支援活動を行っています。

## 事業内容

### ● 現地（ Bangladesh ）での活動

- ① 教育（ジャパニ小学校、奨学金制度、仔牛の奨学金プロジェクト、シンドンダニスクール）
- ② 保健医療（シンドンダニ病院、看護学校、健康教室）
- ③ 生活向上（子牛貸出制度、インフォメーションセンター）



### ● 国内での活動

- ① 総会（毎年5月）、理事会（毎月1回）による活動方針の決定や運営
- ② 会報誌『ミロン』を年2回、6月・12月に発行
- ③ 現地訪問の実施、報告会実施、報告書作成
- ④ Bangladesh 料理教室、チャリティバザー、チャリティコンサートなどの開催
- ⑤ 出張講座や各種イベントでのブース出展などにより、活動紹介

#### 特定非営利活動法人 Bangladesh と手をつなぐ会

〒814-0171 福岡市早良区野芥 6-46-7  
 共同事務所「野芥フリーハウス」内  
 ☎092-407-7701 Fax092-407-7702

email: [info@tewotunagukai.com](mailto:info@tewotunagukai.com)  
<https://tewotunagukai.com>  
<https://www.facebook.com/tewotunagukai>



#### 手をつなぐ会の活動全体の支援

ゆうちょ銀行口座 01720-2-10442  
 特定非営利活動法人  
 Bangladesh と手をつなぐ会

#### ミロン募金（ Bangladesh 現地支援）

毎月の定額振替  
 お問い合わせください

## 編集後記

### Milon

今回、現地報告を4年ぶりに皆さんにお届けすることができ、なによりの喜びです。

Bangladesh やカラムディ村の変化について三者三様の異なった視座から述べられており、驚きを感じながら編集しました。

他方、カラムディ村のような僻地医療に関しては、同じような課題をずっと引きずっており、自立の困難さをあらためて認識させられました。

会 報 名 ミロン152号 2023年6月発行  
 ※「ミロン」は、ひとつになる、手をつなぐという意味のベンガル語です。

発行責任者 ニノ坂 保喜  
 （ Bangladesh と手をつなぐ会 代表）

表紙・監修 小畑 麻乙

編集実務担当 山田 英行

校正担当 河村 富美子